☆年間第23主日（9月6日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（エゼキエルの預言　３３章７～９節）

主の言葉がわたしに臨んだ。
人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。
あなたが、わたしの口から言葉を聞いたなら、わたしの警告を彼らに伝えねばならない。わたしが悪人に向かって、『悪人よ、お前は必ず死なねばならない』と言うとき、あなたが悪人に警告し、彼がその道から離れるように語らないなら、悪人は自分の罪のゆえに死んでも、血の責任をわたしはお前の手に求める。しかし、もしあなたが悪人に対してその道から立ち帰るよう警告したのに、彼がその道から立ち帰らなかったのなら、彼は自分の罪のゆえに死に、あなたは自分の命を救う。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙　１３章８～１０節）

皆さん、互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

福音朗読　（マタイよる福音書　１８章　１５～２０節）

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。

はっきり言っておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。また、はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。
二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

九州地方に大型の台風が近づいています。大きな被害がないように祈りましょう。
今日の主日は「被造物を大切にする世界祈願日」になっています。タンカーの座礁による重油の流出による海の汚染が最近起こっています。また、プラスチックごみによる海の汚れ、海洋生物の犠牲などが深刻になっています。日本では遅ればせながら買い物時のレジ袋の有料化が始まりましたが、プラスチックごみの削減につながるのでしょうか。便利さのためのプラスチックが私たちの世界を壊していることにもう少し気づくことが必要です。自然素材をもっと使いましょう。
さて9月に入りましたが、暑さはまだまだ続くようです。熱中症に気を付けましょう。

第一朗読　（エゼキエルの預言　３３章７～９節）

今日のエゼキエル預言書の言葉は福音書のイントロです。旧約の預言者たちの務めはイスラエルの民に神様の言葉を伝え、回心に導くことでした。気ままなイスラエルの民に神様の厳しい戒めの言葉を伝えるのは大変で、そのために苦しみ預言者たちの言葉が聖書のあちこちに散見されます。今日の「聖書と典礼」の表紙にはエゼキエル預言者が神様の言葉をよく聞こうと耳をそばだてている絵が描かれています。良く語るためには神様の言葉をまずよく聞くことが大切だと教えているようです。私たちも神様の言葉を耳でよく聞き、心でその意味をよく理解し、周りの人々に語るようにしましょう。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙　１３章８～１０節）

　パウロは私たちが行っているいわゆる「道徳的な行為」、旧約聖書ではモーセの十戒に収められていますが、これはパウロによればイエスが私たちに命じられた「愛のおきて」だと言っています。愛の行いは何かとてつもない行いではなく、私たちが神様を愛することであり、人として生きていくことなのです。イエスにおいてこの愛の行いが自然に行われていることに注目したいと思います。神様を愛することは自然のことであり、人を愛しそのために働くこともごく自然のことなのです。

福音朗読　（マタイよる福音書　１８章 １５～２０節）

　イエスが生きておられた時代でも人に忠告することは大変だったようですね。逆切れされたり関係が切れたり、ぎこちない関係になったりと現代でもあまり変わってはいません。現代では「無関係を装う」ことで、自分を守る風潮が強いですし、面と向かっての忠告などは大変むつかしくなっています。
さらに、対面によらない言葉の伝達手段の登場で自分が傷つくことなく相手を傷つけるようなことが起こり、真の意味で「兄弟的忠告」ができなくなっています。イエスはこのような話を通して、神様を愛し大事にすることは何か抽象的なことではなく、ごく身近にある人との関係を正しくすることなのだと教えたいのだと思います。またそのようなことのために働くことの大事さを教えておられるのだと思います。

［追記］
　コロナ感染症の時代にあって私たちはより困難を抱えておられる方々のことを思い起こし、その方々が一刻も早く立ち直ることができるようにしなければなりません。今は、生活費を得ること、仕事が続けられることが優先されています。もちろんそれは大変重要なことですが、自分以上に困っている人がおられることにもっと気を使いましょう。孤独のうちにおられる人が近くにいればどうしたらいいのか考えましょう。相談しましょう。イエスは弟子

たちに、私たちに「沖に漕ぎ出しなさい」と言われました。困難を抱えている人が来るのを待つのでなく、私たちが「漕ぎ出さなければ」ならないことを忘れないようにしましょう。大きな支援活動をする必要はありません。近くの孤独な老人に話しかけることから初めて良いのです。輪は広がるのです。一滴の水が水面に波紋を広げるように！

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光